

六腸煎の事 七御手かけの事 八こぶ、搗栗の事 九熨斗の事 饗膳の事 十一杉盛の事

十二立松の事 十三本饗 盛溫略 十四五節供の事○中

右庖丁卷第一魂見真言曰、

金剛界 伊舍那天 焰魔天 帝釋天 羅刹天  
火天 梵天 月天守謹

貽藏界毘沙門天 日天 風天 地天

四條家傳授

蘭部新兵衛尉

吉田五左衛門尉

蘭部和泉守

羽田神右衛門尉

高橋權兵衛尉

高橋五左衛門尉

寛永十九年

午ノ五月廿一日

中村十右衛門殿

〔宗五大草紙 上〕色々の事

一庖丁仁覺悟兩様に申候板ゆるぎ候へばよくをし直す共云、又包丁仁いろふはまじき事なり、見物衆板の足などにものをかふべしとも云、包丁仁は必えぼしかけをすべし、公方様には進士大草兩流を御用候、流々あまたある事にて候間、一へんに不可有、舟中にては魚を常のごとくにはをくべからず、魚をかへす事をせず、其儘きる様にをくべし、又大草流には、まなばしのさきをばかけすくきのやう成かねを、箸の先に入られ候なり、又刀をとりかへて切べからずと申候、又白鳥などの鹽鳥は能つかへを引くつろぐべし、